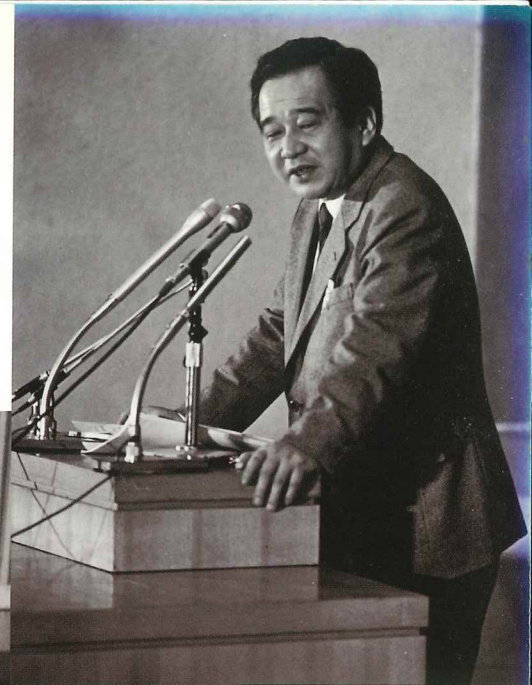


宇井純収集 公害問題資料2



書籍未刊行の公害原論を復刻

復刻『公害原論』

監修：埼玉大学共生社会研究センター

第1回配本 全4巻 B5版 定価（本体98,000円＋税）

第2回配本 全4巻 B5版 定価（本体98,000円＋税）

第3回配本 全4巻 B5版 定価（本体98,000円＋税）



すいれん舎



開講のことは

宇井 純

公害の被害者と語るときしばしば問われるものは、現在の科学技術に対する不信であり、憎悪である。衛生工学の研究者としてこの問いをうけるたびに我々が学んで来た科学技術が、企業の側からは生産と利潤のためのものであり、学生にとっては立身出世のためのものにすぎないことを痛感した。その結果として、自然を利益のために分断、利用する技術から必然的に公害が出て来た場合、我々が用

意できるものは同じように自然の

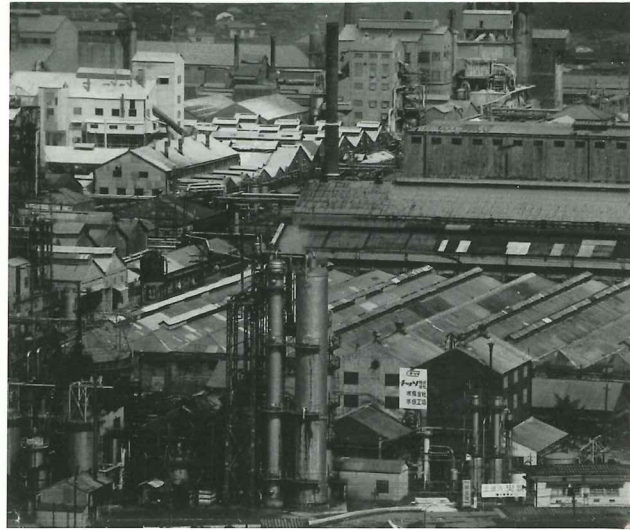
分断、利用の一種でしかない対策

技術しかなかった。しかもその適



第3回配本 収録「公害原論」一覧

		9											8											学期																											
1	別冊	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	11	9	8	7	6	5	3	2	1	回	題名	講師/司会																						
よみがえれ石狩川 —バルブ工場の水銀汚染—	いま第三世界が問うているもの	合成洗剤 あなたは危険性を知っていますか	食糧危機と人口問題 —ぼくらの人口論の創造を—	「革新」川崎市政下での反公害運動 —東電のLNG基地反対—	南北アメリカ大陸調査報告	公害原論6周年記念講座 鼎談	近隣騒音を告発する	柏崎原発反対闘争	闘う志布志湾住民 —大隅開発計画反対斗争—	水俣病—ヘドロ処理の問題点—	旧松尾鉱山の被害者	日本化学とクロム公害 —行政と企業のユ着を追求する—	高知生コン事件—裁判を終えて—	公害住宅を追い出される人々 —公害問題と根はひとつ—	科学労働組合と反公害闘争	送電線を断て!—山形県酒田の闘い—	海の見方・考え方—地方水域の周辺—	環境問題における 国際的な動き	医師の立場から 水俣病—未認定問題	行政と住民	水俣病—未認定問題	東京湾漁民の怒り	破滅への水・飛騨高山	汚水処理技術	新潟水俣病—判決以後	真の住民自治をもとめて —横浜新貨物線反対運動—	宮崎省吾他	橋本十二郎他	宇井純	大森清男他	渡辺栄一	川本輝夫他	出雲洋佑他	原田正純	宇井純	小金井正一	佐藤繁実他	太田薫	山崎圭次他	黒木金哉 他 /児玉貫二朗	志垣襄介他 /安川栄	有村正吉	荒畑寒村・ 石牟礼道子	岩谷十二郎他	芳川広他 /松浦直樹	金刺久	奥田孝晴	坂下米	宇井純	寺島男他	講師/司会



用は、公害という複雑な社会現象に対して、常に事後の対策としてしかなされなかった。それだけではない。個々の公害において、大学および大学卒業生はほとんど常に公害の激化を助ける側にまわった。その典型が東京大学である。かつて公害の原因と責任の究明に東京大学が何等かの寄与をなした例といえば足尾鉍毒事件をのぞいて皆無であった。

建物と費用を国家から与えら

れ、国家有用の人材を教育すべく設立された国立大学が、国家を支える民衆を抑圧、差別する道具となつて来た典型が東京大学であるとすれば、その対極には、抵抗の拠点としてひそかにたえず建設されたワルシャワ大学がある。そこで学ぶことは命がけの行為であり、何の特権をもたらしものではなかった。

立身出世のためには役立たない学問、そして生きるために必要な学問の一つとして、公害原論が存在する。この学問を潜在的被害者である我々が共有する一つの方法として、たまたま空いている教室を利用し、公開自主講座を開くこととした。この講座は、教師と学生の間には本質的な区別はない。修了による特権もない。あるものは、自由な相互批判と、学問の原型への模索のみである。この目標のもとに、多数の参加をよびかける。

《復刻『公害原論』の特色》

1 宇井純の公害原論(書籍未刊行分)の講義を完全収録

「公害と行政」「環境科学の方法論」など宇井純の公害原論(書籍未刊行分)の講義と討論を欠落号なしで完全収録。

2 著名な研究者による講義を掲載

羽仁五郎、都留重人、荒畑寒村など著名な研究者による講義を討論も含め掲載。

3 公害事件現場からの貴重な報告を収録

水俣病や四日市公害など、公害事件現場からの多彩なゲストによる貴重な報告と討論を収録。

4 住民運動の当事者による歴史的な証言を掲載

高知生コン事件、横浜新貨物線反対運動など全国各地の住民運動の当事者による歴史的な証言を多数掲載。

10	
3	2
「革新」自治体の公害行政を問う	原発のもたらすものは —伊方原発訴訟を通して—
遠藤保男他 ／藤原寿和	久米三四郎

公害の歴史の超一級資料

原田正純

(熊本学園大学教授)

推薦者

「公害の研究は旅である」と宇井純は言った。彼の言わんとすることは「現場に行け。現場を見ろ。現場で考えろ」ということであった。東大自主講座はまさに、その具現化であった。全国の現場からじかに闘う人々が次々と登場したが故に、この記録には輝きがあり、全国の闘う者どもにも勇気と示唆を与えた。あの時代、環境問題を真正面に据えて真剣に闘った多くの先達がいたことを若者たちに伝えたい。

今回、『公害原論』の復刻版が出ると聞いてうれしい。その取り上げた問題の多彩さ・幅広さといい、先見性といい、今や、公害（環境汚染）の歴史の超一級資料である。そこで追及された問題は、過去の事件として歴史の中に埋没させることはできない。今なお、われわれの周りにある問題でもある。

鬼頭秀一

(東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

現代の「環境問題」の本質を抉るために不可欠な資料

自主講座「公害原論」には公害の運動の「すべて」があった。

一九六〇年代までの公害問題の多くが宇井純により実践的に分析され学際的に集大成されようとしていたし、また、多くの被害者や闘いの担い手がゲストとして呼ばれた。それは、全国の公害の現場を訪れ、実践的にかつ学際的な研究者として真摯に対応し、関係を築きつつあった宇井純のネットワークが東大工学部の講義室に体现する場でもあった。公害の運動が何を問題にし、どう構築されようとするのか、その混沌の生の状態が語られた。

その後「公害」から「環境」の時代となり、「公害」の突きつけた本質的な問題が解決せず、十分に分析されないまま、表層的な「環境」が語られるようになって久しい。しかし、現在では「環境正義」が主題化し、日本の「公害」問題に、むしろ環境問題の本質的な論点が含まれていたことが認識されつつある。その時代において、この自主講座の講義録が完全な形で復刻されることは、大変大きな意味を持っている。

宇井純収集公害問題資料2

『公害原論』全3回配本

- 第1回配本(3学期～5学期)全4巻 B5版
定価(本体98,000円+税) ISBN978-4-903763-13-2
- 第2回配本(6学期～7学期)全4巻 B5版
定価(本体98,000円+税) ISBN978-4-903763-32-3
- 第3回配本(8学期～10学期)全4巻 B5版
定価(本体98,000円+税) ISBN978-4-903763-68-2

宇井純収集公害問題資料1

『自主講座』全3回配本

- 第1回配本 1号～25号 定価(98,000円+税)
- 第2回配本 26号～50号 定価(98,000円+税)
- 第3回配本 51号～83号 定価(98,000円+税)

写真掲載(全6点)著作 桑原史成

- 淡路剛久 (早稲田大学大学院法務研究科客員教授)
- 植田和弘 (京都大学教授)
- 芝村篤樹 (桃山学院大学教授)
- 菅井益郎 (国学院大学教授)
- 寺西俊一 (一橋大学教授)
- 船橋晴俊 (法政大学教授)
- 宮本憲一 (大阪市立大学名誉教授)
- 森まゆみ (作家)
- 安田常雄 (国立歴史民俗博物館教授)

株式会社 すいれん舎

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-10 西村ビル5F
TEL.03-5259-6060 FAX.03-5259-6070
E-mail masato@suirensa.jp

取扱店